2020 年 11 月 26 日

外部評価委員会委員長
山本義和先生

2020 年度外部評価委員会評価を受けて

神戸女学院大学学長　斉藤　言子

2020 年度神戸女学院大学自己点検・評価活動について、詳細な検討と評価を賜り、まことにありがとうございました。ご指摘いただきました点を今後の活動に活かしてまいります。各組織へのご指摘については当該組織からの回答を本年 11 月末に DMS 上に掲載しております。ご確認くださいますようお願い申しあげます。総評におきましても、本学の活動全般について多岐にわたるご指摘やご提言をいただきました。下記にご回答申し上げます。

１． 2019 年度の活動について。グローバル化や地域連携活動の成果を高く評価いただき光栄に存じます。これらの分野では、コロナ禍の状況をふまえて計画をアップデートしつつ、今後も積極的にすすめてまいる所存です。一方でリカレント教育や 150 周年事業については、進展が見られないとのご指摘をいただいています。150 年記念事業は 2020 年秋に学院の事業として本格的に始動しましたので、大学としてもあわせて発信を強めてまいります。リカレント教育についても引き続き議論を深めていきたく存じます。

2. 大学の現状について。教員構成についてご指摘をいただきました。専任教員の年齢構成やジェンダーバランス、一時的な欠員等に関しては、将来を見据えた全体計画のもとで、各人事を慎重かつ迅速にすすめております（なお英文学科については、学科からの回答もあわせてご参照くだるようお願いいたします）。適正な入学者数管理や大学院教育の充実についても、ご助言を今後に活かしてまいります。

３．今年度計画、および今後の方針について。今年度は新型コロナウィルス感染症拡大のなか、教職員が一丸となって緊急対応にあたり、困難の中にある学生ひとりひとりへの支援と、新たな教育のかたちの模索を続けてまいりました。4 月段階で策定した年次計画に随時変更や追加がなされていく流動的な状況にあって、今年度報告書の中にそれらを十分に盛り込むにはいたりませんでした。この点、外部評価委員の先生方におかれましては、大学の動きが見えにくいところが多々ございましたことを、お詫び申し上げます。大学執行部や各部署で重ねてまいりました取組と検証については、次期報告書において、改めてご報告させていただきます。今回の危機に学び、様々な例外状況や変化に適切に対応できる、より柔軟で機動性のある体制の整備と、迅速で分かりやすい情報発信にむけて、さらに改善を図ってまいります。

今年度は 2021 年度からの新たな中長期計画策定の年ともなっております。2025 年に迎える創立 150 周年とさらにその先を見すえ、建学の精神の堅持とともに、新しい時代にふさわしい教育研究機関としての挑戦を、今後も続けてまいる所存です。

末筆になりましたが、3 年間にわたり外部評価委員として、本学の歩みを見守りお支えくださいました委員の先生方に、あらためて心より御礼申し上げます。

以　上